



2022 JR総連春闘勝利！ シリーズ④

要求の満額獲得を目指す！ 全ての要求は社員の切実な思いだ！

JR東海労は2月14日、春闘（賃金引き上げと夏季手当、諸要求など）の申し入れを行いました（JR東海労ニュースNo.2648参照）。この申し入れの全ては、組合員・社員から出された切実な要求です。

ベースアップ6,000円の要求は、労働者として少しでも生活を豊かにするためのものであることは言うまでもありません。会社役員や上級管理者だけが裕福な生活をして良いのでしょうか？ここ近年、物価上昇により生活に影響が出ています。ガソリン、食用油、小麦製品…、ほとんどが生活必需品です。

定期昇給6,000円の要求は、昇給が逡減する制度のため、ベースアップがなければ昇給が400円しかない組合員・社員が実在することに対する要求です。

夏季手当3.5ヶ月分の要求は、会社が利益剰余（一般的には内部留保）金を3兆円以上持っており、現状の赤字がボーナスの減額理由になりません。また、専任社員のプラス5万円要求は、責任の重さは変わらないのに、手取りが月額10万円前後の安月給でこき使われていることに対するものです。

祝日手当の復活要求は、鉄道業であるJR東海で、年末年始やGWなど、国民の祝日は日常に比べて忙しいにも関わらず、祝日に働く社員に払っていた手当をなくしたために、忙しい思いをしても1円の給料が上がらないため、現場の社員のモチベーションがだだ下がりしているためです。

各種割増手当や各職種における手当の増額・改善要求は、効率化により労働密度が強化され、職種や作業実態に見合った手当が支給されていない現実に対するものです。

54歳原則出向廃止の要求は、この制度の根幹が定年年齢が55歳から60歳になる時期の定年年齢移行のための規則で、定年年齢が65歳となった時代にそぐわない制度であり、この制度を悪用して闘う労働組合破壊に悪用しているからです。

リニア建設中止は、このままりニア建設に邁進すればJR東海が国鉄の二の舞・倒産すると考えているからこそその要求です。

JR東海労は、まだまだ多くの要求を申し入れています。